



海老名市消防本部

公務・自治体

消防・防災



全国初のStarlink×Buddycom 途絶えない指揮系統と迅速な情報共有を実現

海老名市消防本部では、大規模災害時の通信基盤として、**衛星通信サービス「Starlink」とBuddycomを全国で初めて組み合わせて導入しました。**音声・映像・位置情報を一元的に共有し、災害対応・広域連携・イベント警備などに活用しています。

新たな通信基盤の検討を始めた背景には、激甚化する災害への強い危機感がありました。能登半島地震の被災地派遣を通じて、地上インフラが寸断された環境下での通信途絶リスクと、それに伴う意思決定の遅れという課題が浮き彫りになったためです。

また、消防DXの推進で現場の隊員がこなす情報処理量が増加し、写真の撮影・送信や報告文の入力が、少人数で活動する現場の大きな負担になっていました。従来の無線機・電話・ビジネスチャットでは情報が分散し、確実に迅速な共有に時間がかかっていました。

そこで、地上波が壊滅的な打撃を受けても上空の衛星とつながるStarlinkの上でBuddycomを動かすことにより、**大規模災害時でも「確実に届く」通信環境を構築。**判断を早く、記録は自動で、連携は広域へ、という要件を満たす基盤を実現しました。



音声・映像・位置情報を一元化

記録は自動化し、現場の負担を大幅に軽減

主な使用機能



自動録音・文字起こしで、 報告業務の負担を激減

隊員が話した音声はそのまま自動で録音・テキスト化されるため、活動中に手を止めて文字入力する必要がなくなりました。報告書は活動後に自動記録をもとに作成でき、隊員の心理的負担が大幅に軽減。大型モニターにBuddycomをWindowsで表示し、複数人で同時に状況を把握することもできます。

ライブキャストとマップで 水難救助訓練でも真価を発揮

一分一秒を争う水難救助訓練では、ライブキャストとマップ機能が真価を発揮します。ボート上の隊員から状況がリアルタイムに本部へ共有され、「誰がどこにいるか」がマップ上に俯瞰表示されます。情報がBuddycomに一元化されるため現地確認の往復や手戻りが最小化し、本部からの的確な指揮で迅速な救助・捜索体制を実現しています。



導入前の課題

- 大規模災害時における地上通信網の寸断への危機感があった
- 無線機・電話・チャットの併用で、情報伝達にタイムラグが生じていた
- 消防DX推進に伴い、現場でのスマホ操作や文章入力の負担が増加していた

ご担当者からのメッセージ



Buddycomを活用することで、工数の削減につながり、現場での情報共有が迅速かつ確実なものとなりました。特に緊急消防援助隊派遣時やドローン隊等では、少ない人員でも効率的な活動を図れると考えています。



株式会社サイエンスアーツ

東証グロース:4412

www.buddycom.net